

ドクター
メモ

関節リウマチ

関節リウマチは多数の関節に腫れや痛みが起きる病気であり、近年研究が進んできていますが、まだはつきりとした原因はわかっていません。関節の中に、炎症を起こす細胞や、骨や軟骨を痛める分子が増えること、関節の痛みや変形を伴うようになり、関節リウマチの治療は近年急速な進歩を遂げ、有効性の高い薬が多く使えるようになりました。関節の変形は、発症後比較的早い時期に起こることがわかってきており、関節変形をきたさないようにするには、早期から有効性のある薬を使うことにより疾患の活動性を低く抑えることが大切です。内服薬としては、免疫抑制剤であるメトトレキセートが中心となる薬剤であり、その有効性が示されています。注射薬としては、炎症を起こすサイトカインと呼ばれる分子を抑える薬剤や、炎症に関連する細胞の連絡を抑える薬剤が用いられます。いずれも



免疫を抑える作用を用いますので、感染症や悪性腫瘍の発生には注意が必要ですが、きつちりと検査をして使用すれば大変治療効果が高い薬剤です。関節リウマチの初発症状としては、関節痛、腫脹しゅじょう(特に、手関節、手指関節)、朝のこわばり等の頻度が多いので、もしそのような症状を認めた場合は、早めに医療機関を受診して頂き、早期に診断し、治療を開始することにより、関節変形を起こさずに日常生活や仕事を続けて頂けると思います。一旦、関節変形が生じて、日常生活上支障がある場合は装具や手術などの治療により機能改善を図ります。

吹田市医師会 桐座 康夫